

下郷町 一戸赤地区



2020年度
大学生の力を活用した集落復興支援事業活動報告

横田ゼミ



横田ゼミとは？



横田ゼミは、慶應義塾大学の学生を中心とした自主ゼミです。

2016年に「大学の勉強の枠組みに捉われず、より良い社会を目指して議論したい」という学生の有志の声を受けスタートし、現在も学生が大学の授業とは関係なく、自身の意思で参加し、それぞれの問題意識を持って活動に取り組んでいます。

自主ゼミの主なテーマとしては、自分たち自身の”キャリア”を中心に、ソーシャルビジネス、地方創生などを扱っています。大学・学部・学年・出身・興味分野などゼミ生のバックグラウンドは多岐に渡っており、互いに刺激を与えあえる良き仲間として高め合っています。

普段の活動のスピノフの取り組みとして、中学校や高校でのキャリア教育プログラムの提供なども行っています。



メンバー紹介



教員：

慶應義塾大学政策メディア研究科特任教授、
株式会社横田アソシエイツ代表
横田浩一先生

大学生メンバー：

慶應義塾大学	2年	北村 理紗
慶應義塾大学	2年	松井 萌々花
慶應義塾大学	3年	矢吹 真由佳
慶應義塾大学	1年	金子 政宗
青山学院大学	2年	鈴木 彩乃
津田塾大学	2年	香山 友紀乃
都留文科大学	3年	荒井 結子
早稲田大学	1年	北田 遥菜
千葉大学	1年	広瀬 愛理

横田 浩一

横田アソシエイツ代表取締役
慶應義塾大学大学院特任教授

早稲田大学卒業 日本経済新聞社に勤務

2011年株式会社横田アソシエイツ代表取締役

2015年～慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授

MURC講師、みずほ総研講師。

岩手県釜石市地方創生アドバイザー。セブン銀行SDGsアドバイザー。

企業のブランディング、マーケティング、HRM、SDGsなどの改革に携わる。

主著（共著）に『SDGsの本質』（中央経済社）、『デジタル・ワークシフト』（産学社）、『愛される会社の作り方』（碩学舎）、『ソーシャル・インパクト～価値共創（CSV）が企業・ビジネス・働き方を変える』（産学社）、『明日はビジョンで拓かれる:長期経営計画とマーケティング』（碩学舎）など多数。



キタムラ リサ

北村 理紗 (リサ)

慶應義塾大学 総合政策学部 2年
横田ゼミ現役/SASS2020/福島プロジェクト 代表

1999年生まれ、東京都町田市出身
好きなもの/こと：散策、旅、古着、セール・半額、映画、美味しいもの、ひき肉

東京都立国際高校 出身
高校2年次、1年間オーストラリア クイーンズランド州に留学。英語が話せないだけで活躍できない、一方日本では自分の得意言語で生かせる→やりたいことどんどんやっていこう精神芽生える。
帰国後、校外イベントやプログラムに参加する中で国際協力に興味を持ち、慶應義塾大学法学部政治学科に進学。大学の授業や課外活動、スタートアップやNPOでのインターンシップを通して、コミュニティ、キャリア、心への興味関心が強くなり、今年度同大学総合政策学部へ転部。
大学入学後から参加する横田ゼミでは、ソーシャルビジネスや地方創生、キャリアを学び、SDGsやPBL(Project Based Learning)を通じたキャリア教育を中高の授業で実施。

将来：自他ともに成長できる環境づくり
興味のあるSDGs番号：4,8,11
興味分野：キャリア教育、心の表現、地域活性



マツイ モモカ

松井 萌々花 (モモカ)

慶應義塾大学 法学部政治学科 2年
MCI2020

2000年生まれ、埼玉県志木市出身
好きなもの/こと：ダンス、映画、Netflix、カフェ、バイト

東京学芸大学附属国際中等教育学校 出身
小学4年～中学2年にかけてアメリカのカリフォルニア州にて過ごす。
中高ではダンス部の副部長をやりながら、研究活動や課外活動に励む。この経験を通じて、「食」「場づくり」「教育」について興味を持つ。
慶應義塾大学法学部に入学者、ダンスサークルではジャンルリーダーを務めながら、授業やインターンシップを通じて、高校時から抱いていた興味分野について学んでいる。横田ゼミではSDGsやPBLを通じたキャリア教育に携わる。

将来：就職（場づくりやアイデア発想を活かせる職種）→ 自分の心のみに従い転職（おそらく現在のインターン先）→ 小規模なカフェ経営
興味のあるSDGs番号：2,4,10
興味分野：食のユニバーサルデザイン、場づくり、ファシリテーション、デザイン思考、教育



ヤブキ マユカ

矢吹 真由佳 (まゆか)

慶應義塾大学 法学部法律学科 3年
横田ゼミ現役

1999年生まれ、東京都出身
好きなもの/こと：映画鑑賞、音楽を聴くこと、読書、散歩、愛犬とゴロゴロすること

東京学芸大学附属国際中等教育学校 出身
4歳～6歳の2年間 シンガポールに、小学5年～中学1年の3年間 オーストラリアに住む。
シンガポールではインターナショナルスクール、オーストラリアでは現地の女子校に通う。
オーストラリアで旧刑務所を見学したことや高校の授業でアメリカと北欧の刑務所制度を比較した経験などから犯罪者処遇のあり方に関心を抱き、AO入試を経て慶應義塾大学法学部法律学科に進学。
現在は就職活動で進路に迷い中。

将来：個人の幸せに貢献できる仕事、個人が自分らしく生きられる社会、周囲の人の心の拠り所になりたい
興味のあるSDGs番号：5, 8, 10
興味分野：多様性の尊重・肯定、刑事政策、キャリアのあり方、働き方



カネコ マサムネ

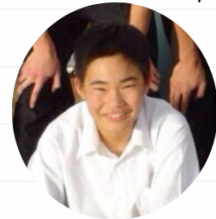
金子 政宗（マサムネ）

慶應義塾大学 商学部1年
横田ゼミ現役

2000年生まれ、神奈川県横浜市出身
好きなもの/こと：筋トレ、読書、料理

神奈川県私立浅野高校 出身
横田ゼミでは大学生メンターとして金沢の高校の授業に携わる。
認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいでボランティア活動に従事。
また、大学一年の9月より教育事業の立ち上げを手掛ける。
絶賛、人としての修行中。

将来：起業家、世界から貧困をなくす
興味のあるSDGs番号：1,3,4
興味分野：エイジテック、フィットネス



スズキ アヤノ

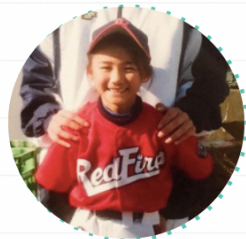
鈴木 彩乃（ズッキー）

青山学院大学 国際政治経済学部2年
SASS2020/ フェミニズム団体LINNKLINK

1999年生まれ、東京都町田市出身
好きなもの/こと：ゴルフ、海外旅行、水泳、野球、お昼寝、ランニング

青山学院高等部 出身
高校三年間、キャプテンとしてハンドボール部に打ち込む。東西対抗戦東チームに選抜。
大学二年次、ワーキングホリデーでアイルランドへ渡航。
英語学習に並行して、スターバックスに管理職として勤務。
人種差別や、LGBTフレンドリーな環境を経験し、社会問題に興味を持つ。
帰国後、青山学院大学で初のフェミニズム団体を創設。現在公認団体申請中。
北村の誘いを受け、中高生のためのSDGs動画コンテスト # SASSの運営に参加。

将来：
興味のあるSDGs番号：5,10,17
興味分野：パブリック・ディプロマシー、開発経済学、国際協力



カヤマ ユキノ

香山 友紀乃（ユキノ）

津田塾大学 総合政策学部2年
南伊勢の扉/ 学生団体My Own Place
2000年生まれ、北海道旭川市出身、東京育ち
好きなもの/こと：カフェ、旅、自然、本

東京都立国際高校 出身
高校三年間：いろいろな分野のディスカッションや講演会に参加する。
福祉施設主催のイベントのサポートをする。ディスカッションのイベントの運営をする。
大学一年：長期のインターンシップ、子供食堂の活動を始める
大学二年：「南伊勢の扉」という地域活性化や中学生のキャリア教育を行う活動を始める

将来は地域に住む人が暮らしやすいまちづくりをしたい。これからデジタル化が進んでいき、高齢者の多い町でどうしたらAIなどの技術とうまく付き合っていけるか、人の温かみと技術の効率性をどのように融合できるかをデータに基づいて考えていきたい。

将来：暮らしやすくて、住民が誇りに思えるようなまちづくりをしたい
興味のあるSDGs番号：1.4.11
興味分野：暮らしやすいまちづくり、統計学



荒井結子 (ゆいこっぴ)

都留文科大学文学部国際教育学科 3年

2000年生まれ、東京都稲城市出身

好きなもの/こと：美味しいものを食べること、コスバ最高の食べ物屋さんを見つけること、韓国ドラマ、、NiziU、ファームステイ、アルバム作り、お菓子作り
サッカー、北欧のデザイン、面白いねって言われることが好きです♡

東京都立国際高校 出身

リサと同じ女子サッカー部でした！笑 今も地域のチームでやってます！

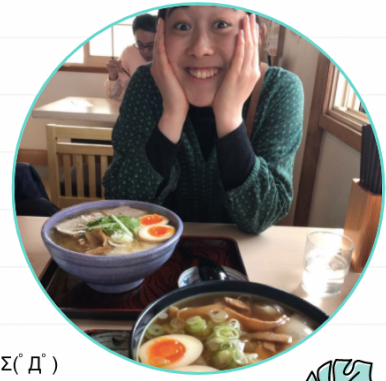
高校2年生のときにノルウェーに行き、そこで訪れたモンテソーリスchoolのびっくり仰天Σ(㉨)

自分の受けてきた教育だけが教育のあり方ではないことを知り、それが、今教育を学んでいるきっかけかも！今は、子どもの幸福度が高いオランダとデンマークの教育・子育てについて興味あり。

将来：2022年 オランダイェナプラン資格研修・日本中でファームステイ 2023年 韓国でインターンシップ・日本語パートナーズシップ・世界青年船の旅 2024年 緑のふるさと協力隊
まだやりたいことが沢山あるから、色々な経験をして、教育の世界に飛び込みたい！
子どもたち・自然・食に囲まれた生活をしたいな♡

興味のあるSDGs番号：全部

興味分野：自己肯定感を高める教育、GAP Year、食品ロス、リメイク、北欧、自然農法



キタダ ハルナ

北田 遥菜 (はる)

早稲田大学 教育学部1年

SASS2020

2001年生まれ、千葉県柏市出身

好きなもの/こと：麺類全般！！ ファッション、カフェ、美術館巡り、花の鑑賞

江戸川学園取手高校出身

小学校から中学校までヒップホップとジャズダンスをやっていました！

中学校時代はバレーボール部にも所属していて、リベロでキャプテンを務めていました、小学校3年生から現在まで書道を続けています。書道は精神統一にもってこいです！(笑)

高校生の頃の総合学習の際に、SDGsについてを知り、自分に出来ることはなんだろうと考えていました。そして大学1年生になってこのプロジェクトに参加している あいあいを紹介して頂いてSASS2020に参加しています。現在は将来、教育系で起業を考えてたり、それを見据えた経営学やマーケティング学、統計学等を学びつつ、Webマーケティングを実践できる企業にインターンシップを考えています。

将来：教育×Webマーケティングを活用した会社をおこすこと

興味のあるSDGs番号：4,5,8

興味分野：教育、マーケティング、ジェンダー



ヒロセ アイリ

広瀬 愛理 (あいり)

千葉大学法政経学部法政経学科

SASS2020/株式会社ミライノラボ/学生団体おりがみ

2001年生まれ、千葉県出身

好きなもの/こと：嵐、旅行、野球観戦

江戸川学園取手高等学校出身

日本の抱える問題の1つである少子高齢化を見聞し、日本社会の為の仕事の必要性を感じるようになる。高校生でSDGsに出会い、「日本の持つ人や物の個性を活かすには」のタイトルで労働人口について考える。現在は、持続可能な地域づくりを若者と一緒に考え、企画し、実践する、千葉大学発の研究成果活用型地方創生ベンチャーの株式会社ミライノラボで学生研究員として活動中。千葉県を中心に地方創生のプロジェクトに関わる。

将来：地域の潜在能力を活かす仕事をする

興味のあるSDGs番号：8, 11, 13

興味分野：地方創生、生活インフラ、風土



幼少期の写真



調査地域 一下郷町



特徴

下郷町は、福島県会津地方の南部に位置し、周囲は那須山系などの山々に囲まれ、町のほぼ中央を南西から北東に阿賀川(大川)が貫流し、国指定天然記念物「塔のへつり」に代表される雄大な渓谷が形成されている。面積の約87%は森林に覆われる緑豊かな町だが、山守がいなかったため荒れ始め虫食いや鳥獣が荒らし始め木々が衰退しつつある。戸赤地区には元々木地工房が複数あったが今は無く、それを模した木地工房をつくり、地区として運営がなされている。また、廃校になった学校を宿泊体験交流施設として運営している。

現状と課題

集落で花まめを育てて加工商品を販売したり、やまざくらを観光スポットとして案内したりと頑張ってはいたがなかなか若者の誘致には至っていない。先述した木地工房の運営者が80歳を超えているも後継者のような人がいなかったり、宿泊体験交流施設として運営している「やまざくら」についても集落住人高齢化に伴い継続運営が危ぶまれている。木地工房や宿泊施設を木造にしたりと森林との関わりが大きいこの集落においてSDGs要素の強い課題から対策や持続性のある集落づくりのための運用を学生たちと考えていきたいとの思いを持っている。

地域が望むこと

集落の人間だけでは固定概念にとらわれすぎてしまっているのので、SDGs等の知識を用いながらその凝り固まった概念を打破していただきたい。また、約87%森林に覆われている下郷町として森林に興味を持つ若者を増やしていきたい。(下郷町 森田さんより)

受け入れ体制

集落だけでなく町全体と連携した循環型システムを考えるにあたり、地域おこし協力隊森田さんのネットワークで、学生の活動の幅や視野を広げるサポートをしていただいた。

下郷町としての推薦理由(下郷町 総合政策課佐藤さんより)

○集落の高齢化率 83.3 %

○推薦理由

戸赤地区は、木地工房ややまざくらなど観光資源が多く点在しており、資源を活用したお祭りを開催するなど町内の中でも積極的に活動を行っている行政区のひとつです。一方で、人口の減少や高齢化率の上昇により、行事の開催ややまざくらの学校(宿泊体験施設)運営を継続していくことが厳しい状態にあります。そのため、本事業を活用することで、若者の新たな視点や発想が地域の活性化に繋がり、持続可能な集落運営の一歩になると考えるため推薦いたします。



活動概要

- 訪問日

12月12、13日

- 訪問メンバー

北村理紗、松井萌々花、金子政宗、鈴木彩乃、香山友紀乃、横田浩一（計6名）

- 受け入れ先

南会津郡下郷町戸赤地区

- 宿泊先

戸赤自然体験あそびの学校やまざくら

- 活動内容

①塔のへつり観光



自然が織りなす絶景！

②戸赤の木工所見学



水車はここだけ！

活動概要

③大内宿観光



くるみ蕎麦を食べました！
絶品！



④大学生と町民の方々とのワークショップ

それぞれ大学生2名、町民3名の班を作り、下郷町の良い所、悪い所、そして下郷町でのSDGs達成に必要なことをディスカッション。各班で下郷町の未来について白熱した議論が展開された。



1

町民からみた下郷町

・プラスポイント

[自然/環境]

- ・自然が綺麗
- ・地形が面白い--塔のへつり
- ・マスクをしなくていい
- ・空気が綺麗
- ・観光資源がある、温泉が気持ちいい

[ひとのあたたかさ]

- ・住民同士の助けあいや繋がりがある。心優しい。

[その他]

- ・しもごろう(下郷町のキャラクター)がかわいい



・マイナスポイント

[ネット環境]

- ・Wi-Fi、通信環境が悪い（オンラインによる活動ができない）

[交通手段]

- ・交通ルールがよくない
- ・交通手段が限られており、不便(車がないと動きにくい)
- ・電車は街の中心しか通っておらず、町の周辺部の方々、特に車を運転できない高齢者の方々は困っている（町からタクシー券をもらっているが、普段の買い物で使えるほどの量はない）

[観光客]

- ・観光客のゴミ問題
- ・観光客は道が分からないため、立ち入り禁止のところに行ってしまう→住民の間では標識がなくても暗黙の了解のような感じになっている

[教育]

- ・学校の先生たちの腰が重い
- ・子供の教育などに関して厳しい保護者の方が多い
- ・他の地域との教育格差(思考的な活動がない)
- ・子供が遊べるような場所(公園など)がない

[その他]

- ・人口流出(→働くところがない、大学進学など)
- ・子供たちが変わった(活力がなくなった)

下郷町に訪問して思ったこと 感じたこと

私たちが下郷町を訪問して思ったのは、下郷町は魅力溢れる町でもっと多くの人にこの町を知ってほしい、ということである。最初に下郷町と聞いたときは、この町自体知らない学生もいて、未知の世界に入るような気分だった。そんな中、町内の様々な場所に行ったが、首都圏に住む私たちにとって新しいものばかりで、新鮮だった。とてもいい場所で、心からまた行きたいと思った。下郷町について考える上で、いい点もたくさんある反面、いくつかの改善すべき点も見つかった。

まず1つ目の課題は、下郷町に住む住民たちは、町をどうしたいと思っているのかがわからないことだ。他の地域から住人を誘致したいのか、観光客を増やしたいのか、もしくはそれ以外なのかと疑問に思った。移住者が増えて欲しいわけではなさそうだが、町の経済面を考えると、町に訪れる人を増やす必要がある。またそれを町民の方々も理解はしているようだが、どこか他人事として捉え、自ら行動している印象はあまりない。

2つ目の課題は、下郷町は住民の中には新しいことに抵抗がある人がいるため、変化することが難しいことである。地域おこし協力隊の方から聞いたお話で、デジタルの導入については非常に抵抗があるようだった。何百年と先祖代々住んでいらっしゃる地域なため、とても保守的で、今の状況に満足しているようなにも見えた。また、新しいことや変わったことを始めることに抵抗があるようだ。政府がデジタル庁を新設するにあたって、下郷町でもデジタル化を進めようとしているそうで、総合政策課がデジタル系のマニュアルを作っているが、担当者は女性一人。デジタルが得意と言っても、なかなか厳しいようだ。

とはいえ、町民は下郷町が好きで、下郷町の良さ、魅力をもっとアピールしたいと思っていることが感じられた。地方に住む人は都会に憧れていたり、都心に行きたいと考えたりする人が多いような印象があったが、下郷町の町民は違った。これまで持っていた固定観念が崩されたような気さえた。都会で暮らす身としては、そうした郷土愛、地元愛のようなものを持っている人はなかなかいないので、羨ましくも感じるほどだ。下郷を愛し、まちをどうにかしたいという想いを持っている方々がいて、下郷町についてしっかり考えていて、客観的に見ることのできる中高生もいた。そうした町の課題と向き合おうとしている人たちがどう力を合わせていけるかが鍵となるだろうと感じた。

冒頭で述べたように、下郷町は観光地としてはあまり名が知られておらず、知名度を上げることがこの先の下郷町の活性化に繋がると考える。その中でも、交通機関や町内外の交流の活性化は、町民にとっても観光客にとっても、鍵となるポイントである。大内宿で特に感じたこととして、それぞれのお店でいいものを提供しているが、

その地域全体として何かを行っているようには感じられなかったので、町をあげた取り組みが必要だと感じた。そして、町をもっと活性化するためには「こどもの力」が重要であると感じた。教育を通じたくさんの刺激を子供達に与え、活気づけることで全体の底上げが可能になるのではないかと。一方、教育関係者の話によると、子供を活気づけるにあたっても、保護者の意見が強い場合があり、それと向き合わなければいけないそう。教育を変えるためには、教育そのものを変えること、保護者からの賛同を得ることなど問題が生じると思うので、教育を変えることは難しい問題だと実感した。役場の方針に不満を持つ住民の声を拾うことは町にとって大きな価値がある。不満の種となっているのは交通や公共施設の問題という印象を受けた。

私たちが今回下郷町を訪問して感じた下郷の良さは、食べ物が安価で美味しくてボリューム、人の優しさ、自然の豊さだ。また、浅草から会津までアクセスがいいことはアピールポイントになると思った。観光資源としては十分すぎるくらいに魅力の詰まった町である。町民自身も、他の場所から来た私たちも感じられるくらい下郷町は非常に魅力あるいい場所であり、私たちもこんなにいい町をもっと広めたいと思った。今回下郷町に訪問するのが三度目の学生もいた。下郷町の魅力は行けば行くほど出てくる(食べ物、人、施設・資源など)。下郷町の奥深さが伝わるといいなと思う。



改善案

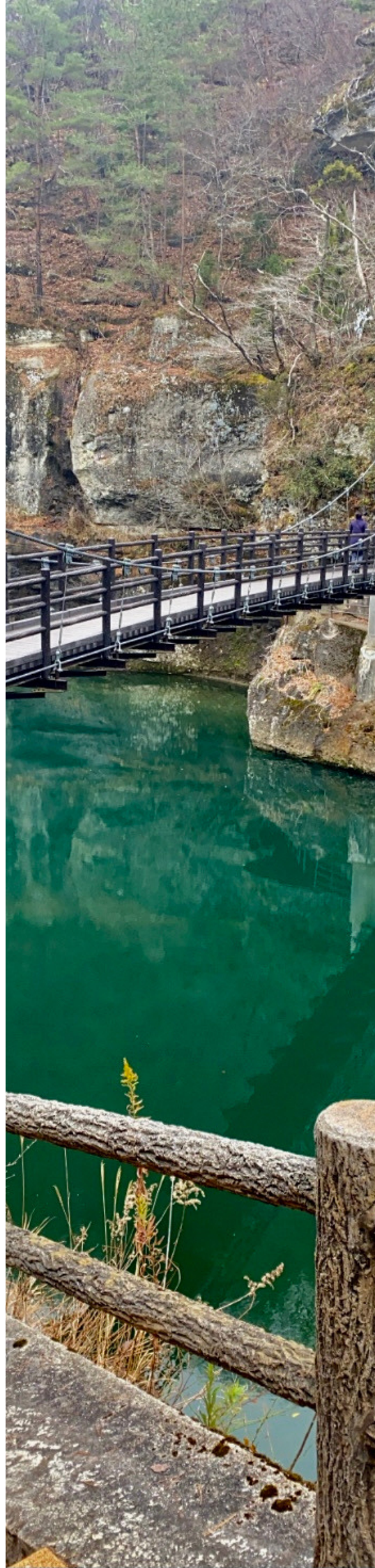
理想の住民像

主体性

まずは住民全員が目指すべき下郷町の姿を共有し、その実現に向けて足並みを揃える必要がある。今の現状に満足する者とそうでない者が互いに議論し、今後どのような下郷町を創っていきたいのか吟味することで、より効率的かつ徹底した改善が見込める。また、目標が明らかになることで住民参加型の街づくりが可能になり、他人任せではなく自分たちの手で町を変えていくという意識が住民に芽生えるだろう。

寛容性

町民同士の繋がりが深い故に移住者などの外部からの人々は排他的に感じてしまう点がある。町の魅力を広めるためにも閉鎖的な姿勢を改善し、外部の者を歓迎するような姿勢を町全体で意識しなければならない。従って、外部からくる移住者であっても町の組織などコミュニティ内に積極的に取り込んでいく工夫が必要である。

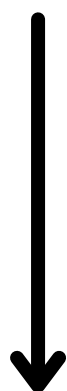


改善案



市としての取り組み

1. 他自治体との連携
2. Instagramの更なる活用
3. 子ども観光大使の設置
4. 教育委員会との連携



- 下郷を知るきっかけ作り
- 下郷の奥深さを確実に観光客に伝える工夫
- 町民の郷土愛を育成する



リピーター、ファンを作り
町に関わる人たちを増やす

1. 地方自治体との連携

現状：

下郷町単独で自地域の魅力を発信する取り組みを行っている。そのため、他地域に比べると少し知名度が低く、新規観光客の参入を遠ざけて待っている。

プラン：

会津若松やスキーなどの近隣地域観光の延長線で、大内宿をはじめとした下郷町の観光スポットへ訪問する観光客を取り込むため、会津や他の地方自治体との連携を図る。具体的には、セットの観光ツアーの企画や、スタンプラリー企画、割引・プレゼント企画等が考えられる。加えて、下郷町は観光スポットが転々としているため、移動中も観光を楽しめるような工夫が必要である。例えば名物のバスや電車を作り、移動中も観光気分を味わえるようにする等だ。



2. Instagramの更なる活用

現状：

投稿頻度が少なめであり、風景のみの投稿が多い印象を受ける。近隣地域「会津若松市」のInstagramフォロワー数と比較すると6000人ほどの差がある。

プラン：

アクティブで行動範囲の広い若い世代をターゲットに情報発信をし、観光客の増加を見込める。また、地方創生に興味を持つ学生と繋がり、新たな視点を取り込むことも可能。従って彼らに興味を持たせるSNS戦略を練る必要がある。具体的には、若年層に興味を持たれそうなグルメやインスタ映えスポットの掲載、Instagramを通じたキャンペーン企画、ハッシュタグ企画、1日観光プランのまとめ等が考えられる。加えて、SNSを通じたオンライン交流会の企画も提案する。



3. 子ども観光大使の創設

現状：

子供たちの地域活動への積極性が減っていることが課題となっているというたくさんの声が下郷町で行ったWSであがっていた。観光への取り組みも役場から町民へのトップダウン形式で行われている実態がある。

プラン：

小学校や中学校等を通し、下郷町に住む子供たちを数名募集し、下郷町子ども観光大使として1年間活動してもらおう。子どもを取り込むことで、住民参加型の街づくりを実現する上で、その家族をも取り込んでいく効果が得られる。加えて、子どもが町に対する郷土愛を育むきっかけになり、町の創生を活性化させることが可能になると考えている。



4. 教育機関との連携

現状：

下郷町でのWSの中で多く上がった意見の一つに教育機関の消極性があげられる。課外活動への消極的な姿勢が多くみられ、役場による積極的な歩み寄りを必要としている。

プラン：

教育水準は町の魅力に大きく関わるため、高い教育水準を保障することは必須である。加えて、町の抱える問題について生徒に考えさせらような教育は、郷土愛を育むだけでなく、問題に主体的に取り組む姿勢を生み出す。具体的には、小学校や中学校と都心の大学生等とを繋げての短期プログラムの実施等が考えられる。



先生からの提案

まちの税収（地方交付税）は5年に1度の国税調査で街の人口によって決まる。

つまり、、、まちの収入＝住民人口

高齢者が増え、若者が減る中で、人口減少を抑え、まちの幸福度を満たしていくことでまちの持続性を維持していく。その際に若者を増やしていく必要性がある。

「自己決定感」 （シビックプライド/教育）

年収や学歴よりも自分で自分の人生を決めたんだと言う「自己決定感」こそ幸福度に関して相関が高い要素

⇒（下郷出身で東京に出て）自分の意思で下郷に（戻って）きたIターン、Uターンの方々の幸福度は高い。

自分で納得した人生を歩むためには、下郷を愛するシビックプライドを高めるための教育が大切。

【実際】ワークショップ内で高校生がそういったまちの良さを知る機会、教育はあまりなされていないと発言。

【提案】偏差値を高めるだけではなく、自己決定感を感じさせるための、シビックプライドを高める教育を導入することが大切。

「つながり」 （町内、移住者、大学生など）

町内全体、移住者同士、役場と学校、農業従事者などの繋がり存在・維持

【金沢市の例】

町内会のつながりを整備し、ラインで繋がる取り組みを市役所がお金をかけて行っている。
目的)) 孤独死対策・助け合いの喪失を防ぐ。
☑社会的資本が失われる現状に対する対策

つながるスキルが身につく、街の中だけではなく外との繋がりにも広がっていく。例えば、移住者とのつながりがその人の出身地の人々との繋がりにも拡大する。

⇒コミュニティができる

つまり、つながりの充実の先にコミュニティの充実や移住者の増加が見据えられる。＝幸福度の上昇

ワークシヨップ

～参加者の意見～

【参加者①】

福島県民の中でも景観の良さから下郷町のファンは多い

例：湯野上温泉車駅越しの景色など

景観が最大の魅力の一つであるため、景観を変えずに街を変えていきたい。
移住者を受け入れることで、新しい人が多く流入し新しい建物などが出来ていく中で景観が失われていくことが大きな懸念。

【対策】住民一人一人が何を残し、何を変えたいのか、どういう街にしていきたいのかを深く考え、移住者にきちんと伝えていく。理想像を一致させていく。

【参加者②】

下郷町には、高校・大学がないため、進学を機に街を出ていく人が多い。

7割近くの若者が進学先で就職☒人口流出の大きな要因

進学を機に出て行っても、卒業後に戻ってきけるような街にしたい
＝就職先の充実が大切なのは

【対策】仕事がない訳ではないが、大学を卒業した若者がやりたいと思う仕事がない。
東京の企業でリモートワークを続けると宣言している会社もある。
完全移住が難しいのであればリモートワーク拠点として誘致することも可能。

【参加者③】

高齢な方など特に温かいと感じる。移住者として排外的に感じたことはない。

下郷の良さは景観の良さ、豊かな自然もそうだが、温かい人間性である。

だからこそ、急な変化を好まない人が多いのでは？

【実現可能な具体的な取り組み】

- ・買い物などの足として、交通の便を充実させる
- ・空き家の整備（移住者がすぐ住めるように）
- ・観光地、景観の良さをそのまま活かして、更新頻度などを上げていく

プロジェクト実施の感想

金子 政宗

下郷町の町民の方と実際に触れ合うことで、リアルな課題を肌で感じることができました。これからの日本において重要な問題となるだろう地方問題について考えられたのはとても良かったです。

北村 理紗

プロジェクトを通じて、初めて1つの地域に深く関わりました。訪問する度に下郷の奥深さを知り、人の温かさに触れ、どんどん愛着が湧いてきました。地域のためにできることを、今後も模索していきたいです！関わってくださったみなさん、本当にありがとうございました！

鈴木彩乃

実際に下郷町を訪れ、地元住民の方々のお話を伺う中で、新しいまちづくりをする際に、理想のまち像を住民同士でよく話し合い、一致させる必要があると学びました。どういうまちしていきたいのか、何を残したいのかなど、よく話し合うことで、具体的なまちのあり方が見えてくるのだと思います。みんなのまちだからこそ、個人個人が主体的に関わっていく必要があると改めて感じました。

松井萌々花

プロジェクトを通したたくさんの住民の方々や関係者の方々と実際に触れあうことで、下郷町への愛着が深まりました。それと同時に、下郷町をはじめとした地方地域が抱える問題の深刻さや住民が抱える葛藤を肌で感じ、課題解決の難しさと喫緊性を再認識しました。これからも下郷町の豊かな土地と温かい町民性をどうすればより活性化し、魅力を伝えられるかについて探求していきたいと思います。

香山 友紀乃

自分の知らないまちに住む人々がどのような暮らしをしているのかを知りたいと思っていたので、今回訪問して下郷町のことを知ることができて、非常に勉強になりました。下郷町に住む方達のまちへの愛や誇りがあることを実感するとともに、もっと多くの人に下郷町の良さを知ってもらいたいです。日本の課題である地域格差について、より理解を深められるよう、これからも取り組みを続けていきたいと思っています。

最後に

今回、ご協力いただきました下郷町地域おこし協力隊森田さん、下郷町役場のみなさん、ワークショップに参加してくださった町民のみなさんをはじめとし、関わっていただいた方々、本当にありがとうございました。

また今後も引き続き、よろしくお願いいたします。

横田ゼミ一同

